

平成30年度（2018年度）事業報告

➤ 総務部

- ・木育キャラバン2018
- ・中橋恵美子藍綬褒章受章報告&わははネット子育て応援感謝祭
- ・組織体制強化

➤ 子育て環境改善部

◆企画制作チーム

※ホームページ リニューアル

1. 子育て情報誌「おやこDEわはは」
2. わははメール・LINE@ 試験配信
3. バナー広告
4. サポーターズ・クラブ
5. メディア
6. ママ∞フェスタ2018

◆事業推進チーム

1. 高松市 子育て支援総合情報発信事業
2. 香川県 縁結びから子育てまで美容-eki 業務
3. 香川県 「イクケン香川」子育てカレッジ事業
4. 香川県 子育て支援人材養成事業
5. 高松市 中学生と乳幼児のふれあい事業
6. 香川県 働き方改革モデル企業サポート業務
7. 香川県 働き方改革コンサルタント養成講座業務
8. 香川県 働く女性活躍応援セミナー業務
9. 丸亀市 ワーク・ライフ・バランス推進のための企業コンサルティング業務

➤ 子育て支援部

- ・わはは・ひろば坂出（三谷）
- ・わはは・ひろば高松（鏡原）
- ・たかまつ地域子育て支援コーディネーター事業（前田）
- ・わはは・ひろば香西（郡）
- ・指定管理事業「まるっ子ひろば」（さかいで子育て支援センター）
 - ・自主事業（辻野）
 - ・「まるっ子ひろば」子育てひろば（三野）
 - ・「まるっ子ひろば」子育て相談（太田）
 - ・「まるっ子ひろば」一時預かり事業（太田）

◆木育キャラバン 2018in 丸亀町 (丸亀町商店街振興組合協力事業)

平成30年8月18日(土) 19日(日) 来場者 1700名

ボランティアスタッフ延べ 100名

(おもちゃコンサルタント・丸亀町・わははネット・高松大学・高松短期大学など)



◆中橋恵美子藍綬褒章受章ご報告&わははネット子育て応援感謝祭

平成30年3月1日 参加者 106人 寄付額 318,000円



◆組織体制強化

- ・組織体制整備 (別添 組織図参照)
- ・人事評価制度導入に向けての検討
- ・社内報の発行
- ・セルフキャリアドックの導入

1. 子育て情報誌おやこDEわはは（vol.78～vol.83） 収入 ¥16,841,088-

2018年4月より新体制にて情報誌編集がスタートに伴い、表紙、中身をリニューアル。

新メンバー 中橋（編集長）、浪越、森田、吉岡

発行年6回 隔月（奇数月）15日 発行部数 25,000部 配布箇所 香川県全域 約1,200箇所

特集テーマ

- 78号（5月号・チャイルド）ゆる家事ゆる育児（香川大学 教育学部教授）
- 79号（7月号・キッズ） みんなで育てよう「自己肯定感」（香川大学 医学部）
- 80号（9月号・ベビー） おススメ クチコミ情報！（県内地域子育て支援拠点）
- 81号（11月号・祖父母） はじめようイマドキの「孫育て」（高松短期大学 保育学科）
- 82号（1月号・マタニティ） ツマとオットのほんまのホンネ（屋島総合病院、山本文子氏）
- 83号（3月号・パパ） ポスト平成時代のイクメン戦略（ファミリーエ 徳倉康之氏）

■ 他誌との差別化 表紙リニューアル

親子モデルを表紙にしていたが、子育て系情報誌と差別化を図るためにイラストに一新。

香川県在住のイラストレーター オビカカズミさんに依頼、毎号、特集テーマに沿った表紙にしている。

■ ターゲット層、年間テーマを提示して、取材先や協賛企業への働きかけ、新規協賛企業の開拓

企業とママを結ぶための早めの情報収集、企業への情報提供を行えた。特集テーマに合わせて、地域の資源や専門家を生かす

■ 新コーナーの掲載

わははネットの目線からリサーチ子育て家庭や社会に情報発信するコーナー

- ・わはは総合研究所
- ・教えて時事問題
- ・海外通信 FROM UK

協賛企業とのコラボ企画

- ・HUG はぐタイム（むらかわクリニック）
- ・くるまDEおでかけ（トヨタカローラ）
- ・ママの働きたい隊を助け隊（クリエアナブキ）
- ・コラム（しん治歯科）

住まい特集

- ・ハウスメーカーの紹介をひとまとめにすることで相乗効果をねらう

■ わははネットが手掛ける事業とリンクしたコーナー、わははネットの広報媒体として掲載

- ・香川県受託事業（縁結びから子育てまで美容-eki 事業、働き方改革、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進）
自主事業・受託事業の周知・参加募集・開催報告を掲載
- ・ママ∞フェスタ2018
- ・わはは・ひろば・FMラジオ、RNCラジオ、イクコミ
- ・サポーターズ・クラブ

■ ホームページ・SNS とのリンク

・わははネットページリニューアルに伴い、情報誌をウェブマガジン化し閲覧できるようにした。

・ホームページ内お知らせコーナーで協賛企業の情報を提供。

→情報誌発行のタイミングでは合わない情報を発信することができた。

2. ママ∞フェスタ 2018 (7回目) 収入 ¥4,110,264-

日時:平成30年7月8日(日) 10:00~15:00

場所:サンメッセ香川 大展示場全面、第一屋外展示場

来場者数:のべ11,000名

設営・撤去: 設営業務全般 : プラス・エー・清掃業務 : ハウス美装

出展団体* ()内は昨年度

・企業 44社53ブース(45社55ブース)・ママ 24団体26ブース(21団体25ブース)

・ステージ 5ステージ(5ステージ)・同梱サービス 6社(7社)・広告協賛 3社(4社)

新規出展 : 企業 12社、ママブース 12団体、ステージ 1ステージ

- 西日本豪雨の影響で香川も大雨が続いており、ママフェスタ前後のイベントが軒並み中止。ママフェスタ当日は雨があがったこともあり、過去最高の来場者数となった。
- 事前説明会の初開催。
出展企業からはお互いの顔合わせの機会になると好評。ハンドメイド出展者からは時間確保が難しいとの意見あり。
- 設営業者の見直しにより経費削減

3. わははメール・LINE@・バナー広告 収入 ¥237,600-

- わははメール (2019年3月31日をもって廃止)

・アンケートの実施

・企業広告 株式会社クリエアナブキ ママスクエア事業推進室、高松市文化芸術財団、

新規 ■ LINE@

・わははメールに代わるものとして1月より試験配信スタート

- バナー広告

受注実績一覧

- ・継続5件: ホテルセカンドステージ、田中工務店、吉田建設(代理店経由)、ジェムスクール
- ・短期1件: 人形のあづま

4. サポーターズ・クラブ 寄付金収入 ¥598,912-

H30年度新規入会はなし。情報誌発行のタイミングに「サポーターズ通信」の発行

5. メディア

- FM香川「ラジオ DE わはは」

毎週金曜 14:30~FM香川「ウィークエンドシャトル」の1コーナー。

県内のイベント・講座、わははネットの自主事業・受託事業、情報誌発行等

- ケーブルメディア四国(高松ケーブル)

イクコミ! 知って得する子育て情報コーナー(毎日オンエア)

- RNCラジオ「さわやかラジオ ハイタッチ」月1回「子育てことはじめ」

子育て環境改善部（事業推進チーム）2018年度 事業報告

継続事業	1【高松市委託事業】高松子育て支援総合情報発信事業
事業内容	子育て支援総合情報サイトの管理・「らっこ」改訂増刷作業 5,000部増刷 ひとり親サイトの構築、冊子改訂増刷作業 3,000部増刷
実施予定日時	平成30年4月1日～平成31年3月31日
発行部数	らっこ 5,000部、ひとり親 3,000部
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	高松市内の子育て家庭に向けて
事業費	¥3,906,920 (前年事業費 ¥4,197,024)

継続事業	2【香川县委託事業】縁結びから子育てまで美容-eki 業務
事業内容	香川県の子育て家庭や子育て支援の現状、結婚支援について学んでいただき、子育て家庭を温かく見守り応援し、結婚について考えるきっかけや結婚を希望する方の結婚支援の窓口になり得るサロンを認定
実施予定日時	平成30年4月24日～平成31年3月15日
店舗数、受講者数	53店舗、75人(平成31年3月末現在 認定店舗数:422店舗、受講者数:のべ714人)
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内の理美容院・リラクゼーションサロン・整体院等で勤務されている方、管理者
事業費	¥5,000,000 (前年事業費 ¥8,925,398)

継続事業	3【香川县委託事業】『イクケン香川』子育てカレッジ事業業務
事業内容	子育て家庭の子育てに関する不安や孤立感を解消し、時代を担う子どもたちを安心して生み、健やかに育てることができる環境を整えることを目的に、主に子育て中の保護者を対象に、子育てに関する正しい知識や情報を提供し、さらに地域の子育て支援事業につながるきっかけとする。 ・子育て支援者スキルアップ講学科（トリプルP、CAPプログラム） ・乳幼児パパ・ママ学科（子どもの発達応援リレーセミナー）（バスツアー2回） ・子育て環境整備学科（企業対象セミナー2回）
実施日時	平成30年4月24日～平成31年3月15日
開催回数、参加者数	6回、195人
実施場所	香川県内
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内の子育て家庭に向けて
事業費	¥2,942,000 (前年事業費 ¥5,788,193)

継続事業	4【香川県委託事業】子育て支援人材養成事業
事業内容	地域の子育て支援に取り組む人材を養成する研修を実施し、研修を修了した者を「子育て支援員」及び「放課後児童支援員」として認定する。
実施日時	平成30年4月4日～平成31年3月31日
受講者数	申込数：347人、修了者数：248人
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	3人
受益対象者の範囲及び人数	県内の子育て支援の仕事に関心が持ち、子育て支援分野の各事業等に従事することを希望するもので受講申し込みをする者。
事業費	¥8,654,000 (前年事業費 ¥10,809,421)

継続事業	5【高松市委託事業】中学生と乳幼児のふれあい事業
事業内容	中学生と乳幼児の親子がふれあう中で、中学生がこれからの将来の像を描いたり、自分が生まれてからこれまでを振り返ったりすることができる経験をする。乳幼児の親子は、自分の育児経験を中学生に話すことで役立ち感を感じたり、自分の子育てを客観的にみつめる機会を持つ。
実施予定日時	契約締結日～平成31年3月31日
実施場所	紫雲中学校、勝賀中学校
生徒数	450人
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	上記2か所の中学生及び参加親子
事業費	¥320,000 (前年事業費 ¥320,000)

継続事業	6【香川県委託事業】働き方改革モデル企業サポート業務
事業内容	働き方改革に取り組む意欲のある県内の企業等（以下、「支援企業」という。）を公募・選定し、コンサルタント等の専門家を派遣し、企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組みが効果的に進められ、支援企業の経済活動の発展につなげることができるよう支援するため、以下の業務を行う。
実施予定日時	平成30年4月2日～平成31年3月22日
参加社	5社（株式会社アイ・ディー・エム、株式会社ウエストフードプランニング、株式会社きむら、医療法人社団弘誠会・株式会社ゴーフールド） 専門家 谷益美さん（ファシリテーター）、植田博司さん、田中道博さん、谷川由紀さん、仲井京子さん、渡辺日菜子さん
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	香川県内に本社・本店を有し、常時雇用労働者数が300人以下である、働き方改革に取り組む意欲のある県内の企業・法人・団体等
事業費	¥6,400,000 (前年事業費 ¥6,400,000)

新規事業	7【丸亀市委託事業】丸亀市ワーク・ライフ・バランス推進のための企業コンサルティング業務
事業内容	職場のワーク・ライフ・バランスを推進するために取組を開始したい企業や、現在の取組を見直したい企業において、経営者と従業員が一体となってワーク・ライフ・バランスの推進に取り組める仕組みづくりの支援を実施。
実施予定日時	契約締結日～平成31年3月16日
参加社	2社（株式会社コスモ不動産・医療法人社団光志福祉会）
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数	市内に主たる事務所があるもののうち、常時雇用労働者数が300人以下である企業、法人2社以上。
事業費	¥1,700,000

新規事業	8【香川县委託事業】働く女性活躍応援セミナー業務
事業内容	働く女性が輝き、男女ともに安心していきいきと働き続けられる香川づくりを実現し、女性の活躍推進による地域社会の持続的発展を図るため、結婚、出産等の理由で一旦離職し、再就職を目指す女性等の就職支援や、企業等における女性を取り巻く環境整備の礎となることを目的としたセミナーを開催。
実施予定日時	平成30年7月24日～平成31年3月29日
参加者数	95人
実施場所	わははネット事務局
従事者の人数	5人
受益対象者の範囲及び人数795	① 再就職支援セミナー 谷川由紀さん（キャリアトランプ）菅瑛祐子さん（企業が求める人材、心構え） 太田広美さん（コーディネーターによる情報提供） 高松地区・丸亀地区でそれぞれ1回開催、開催時間：2時間半程度で各20人程度の参加。対象者は、出産・子育て・介護等で離職中の女性。 ② 人事・労務担当者向けセミナー ・株式会社wiwiw 山際清子さん ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング 矢島洋子さん 高松地区・宇多津地区でそれぞれ1回開催、開催時間：3時間以上で各30人程度の参加。対象者は、企業経営者及び人事労務担当者。
支出額	¥2,700,000

子育て支援部（わはは・ひろば坂出）2018年度 事業報告

年度目標	子どもが楽しめるひろばへ(様々な人と関わる・経験ができる・子ども同士遊べる・自分が尊重される)
事業費	¥7,951,000
利用者数	延べ利用人数 5,798人 前年度比 92.5%

◆情報提供：利用者のニーズに沿った情報を提供

- ・利用者への定期的なアンケート調査を実施し、ニーズに基づいた情報を集めた。
- ・スタッフ間で「見やすい掲示板・目を引く掲示のしかた」などの勉強会を開き、学んだことをもとに掲示板作りをした。
【効果】 掲示板を利用者のコミュニケーションツールのひとつとして活用できた。また、利用者とともに掲示板を作ること
で利用者の役立ち感につながった。

◆イベント：子どもが楽しめるイベントへ

- ・子どもどうし関わりを持つことで人との関わり方が培われるよう対象を絞ったイベントや、利用者同士子どもを見合うイベントを実施した。
- ・子どもが親以外の大人と関りながら育つよう地域のボランティアを受け入れた。
【効果】 (グラフ③)子どもが楽しい・子どもに友達ができる 29年度46%→30年度48%
自分の子ども以外の子どもと遊び、かかわり、お互いに助け合う姿がみられるようになった。
イベントの提案や、計画・実施まで利用者が主体的にひろばに関わるようになった。

◆スタッフのかかわり：子どもの楽しいが子どもの育ちにつながるようなかかわりを目指す

- ・「子どもが楽しめる」をテーマにテキストや勉強会の資料を用いた、具体的な事例を挙げた勉強会の実施。
- ・目標(子どもが楽しめる)に対して何をしたかをもとに振り返りを行った。
【効果】 スタッフの共通理解につながり、スタッフ自ら子どもに関わることに積極的になった。

◆地域連携：地域資源を活用し、地域と子どもとのつながりを作る

- ・夏祭り・クリスマス会・餅つき・土曜デー参加、ボランティア受け入れなど、卒ひろば利用者や地域の人と関わる機会を作り利用者と地域をつなぐきっかけを作った。
【効果】 ひろば以外の場で会っても地域の人が利用者に声をかけてくれるようになった。
卒ひろば利用者が今まで以上にひろばに関わってくれるようになった。
いろいろな世代の人との交流ができた。

◆広報活動：新規増加を目標に、HP毎日更新継続とFB週3回以上更新。

- ・HP毎日更新とFB定期更新を継続した。
- ・0歳児を対象としたチラシを作り、3、4か月児健診で配布。また日頃から赤ちゃんの利用があることも声かけし、新規獲得につなげた。
【効果】 ひろばを知ったきっかけ 29年度HP4%→30年度12%・3,4か月健診36%・通りかかり9%
直接会って話したほうが来館につながる事がわかった。

《事業全体の成果》

- ・持ち回りの勉強会や話し合う機会を持つことで、目標を見失うことなくスタッフ皆で取り組み、チームワークが向上した。
- ・来館者が親子だけでなく地域の人や卒ひろば利用者、ボランティア、児童発達デイなど様々な人が訪れるようになり、ひろばと地域と利用者が相互に関わることができるようになった。

《事業全体の課題》

- ・来所に関しては直接的に声かけするほうがより効果的であるが、出向いての広報をどのようにするかを考える必要性が感じられる。一方で情報収集に関しては(グラフ④)アンケートによると利用者が情報を得る手段は「ネット検索」が全体の44%と多く、次に「友達に聞く」が31%、「ひろばを利用する」が19%となっており、SNSによる情報発信のしかたが今後の課題だと感じる。

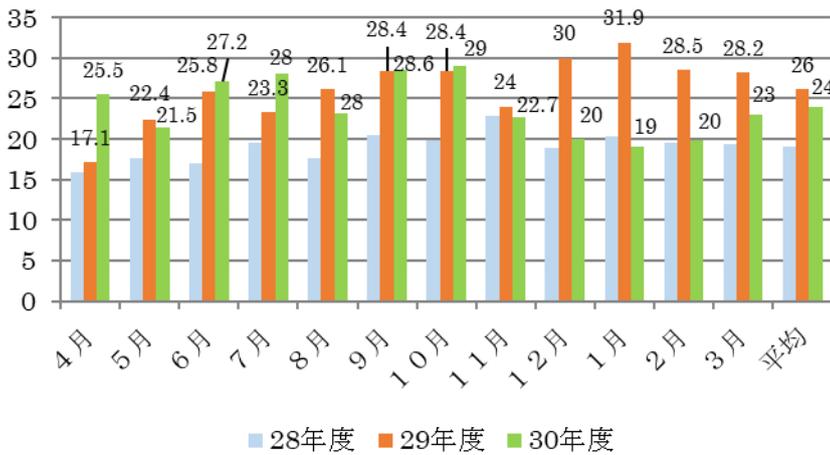
<p>① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<p>○ひろば開館中は、親子が孤立しないようにスタッフが十分配慮し、自由に交流ができるようにしている。</p> <p>○同じ月齢の子どもを持つ親同士や多胎児の親同士が出会える場を作り、より交流が進むきっかけづくりをしている。</p> <p>○異年齢交流や父親の交流にもつながるよう、土曜日(月1回)も開館している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お誕生日会 月1回 / 計12回 ・赤ちゃんひろば 月2回 / 計24回 ・ツインズデー 月1回 / 計12回 ・わんぱくひろば 月1回 / 計12回 ・ふれあい遊び4回 ・絵の具遊び・運動会・遠足・クリスマス会・夏祭り・餅つき各1回
<p>② 子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<p>○スタッフと一緒に子育てを考え、見守る姿勢を前提に、情報提供や必要であれば専門機関を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師相談・子育て座談会(さかいで地域子育て支援コーディネーター参加) ・保健師さんと座談会・子育て支援コーディネーター・栄養士によるおやつのはなし
<p>③ 地域の子育て関連情報の提供</p>	<p>○ひろばに情報コーナーを設置し、市役所、図書館などから得た子育て情報をいつでも見られるように整理・配置しておく。</p> <p>○口コミ掲示板を設置し、利用者相互の情報交換が図れるようにしている。</p> <p>○サークル、子育て支援拠点などの情報をわかりやすく整理する。</p> <p>○子育てに関する新聞記事や講座などの資料を掲示している。</p> <p>○利用者からの情報提供を募る。</p> <p>○わははひろば専用ホームページの運営。その他、本体NPOで収集した情報を携帯メール、インターネット、Facebook、情報誌等で提供。</p>
<p>④ 子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<p>○利用者親子が講習や座談会に参加できる機会を設け、子育ての悩みの軽減につなげたり、同じ立場の子どもを持つ人と交流できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急講座(1回/年) ・子育て座談会(1回/年) ・わらべうたあそびの講座(12回/年) ・防災講座(11回/年) ・助産師によるベビーマッサージ(3回) ・手あそび、絵本読み聞かせ(随時)

【新自主企画】夜のわはは・ひろば

4月より1回/2か月 金曜日の17:30~20:00実施
 対象はひろばを平日の日中利用できない人や父親を含め祖父母など
 地域の居場所として開館。
 効果:父親の参加や送迎などで顔の見える関係構築となり
 その後の家族支援、イベント参加に繋がった。

	大人	子ども	合計
4月	11	14	25
6月	18	26	44
8月	4	10	14
10月	18	17	35
12月	6	9	15
2月	8	12	20
合計	65	88	153

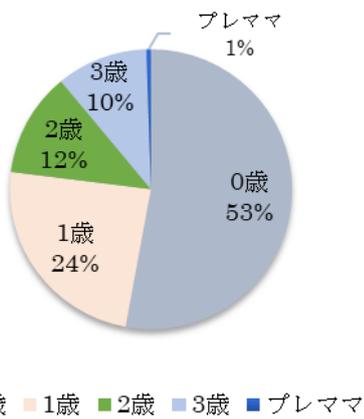
28年度～30年度月別利用者平均／日



利用延べ人数(人)

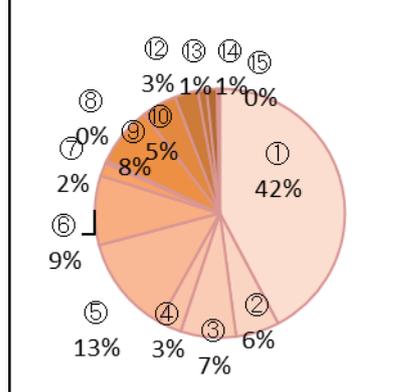
28年度	4,573
29年度	6,269
30年度	5,798

30年度登録時の子どもの年齢

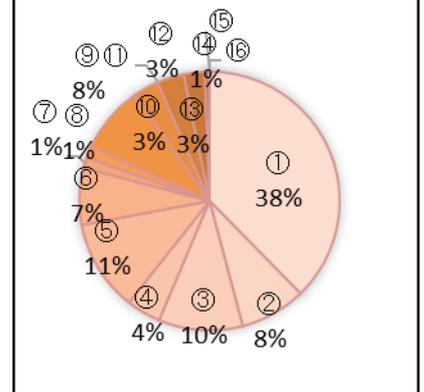


①

H30年度ひろばを利用している理由



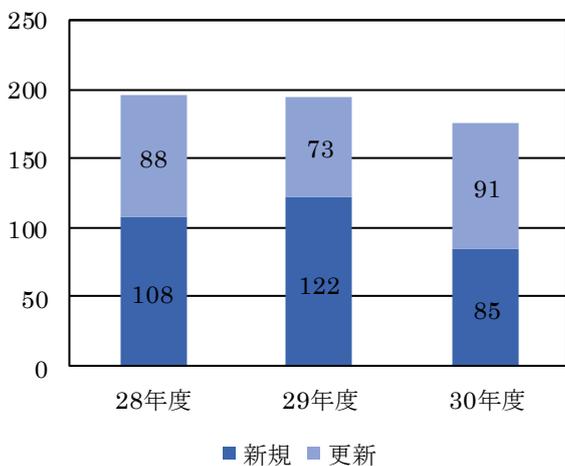
H29年度ひろばを利用している理由



- ①子どもが楽しめる
- ②子どもに友達ができる
- ③自分の知り合い・友達ができる
- ④自分自身が楽しめる
- ⑤自分の息抜きができる
- ⑥スタッフに子育て相談ができる
- ⑦専門家に相談ができる
- ⑧子育てに関する知識が身につく

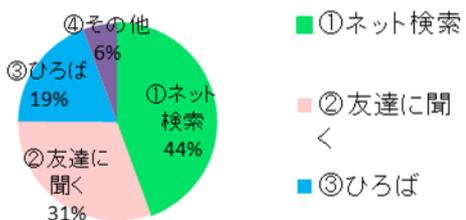
- ⑨いつ来ていつ帰ってもよい
- ⑩イベントに参加できる
- ⑪イベントがない日が多い
- ⑫無料だから
- ⑬地域の人たちと交流できる
- ⑭地域の情報が入手できる
- ⑮その他

28年度～30年度登録利用者数



②

情報を得たいとき・困ったり悩んだりしたときどうしますか？



子育て支援部（わはは・ひろば高松）2018年度 事業報告

年度目標	ひろばが地域となるために～もう一歩前へ～
事業費	¥7,951,000
利用者数	延べ人数7,573人（前年度7,888人から92.6%） 新規登録 215組（目標 270組 達成率77.8パーセント）

◆情報提供…まだ知らない人へひろばの情報を届ける。

- ・「はじめましてカード」を作成。手型・足型のクーポンを作成し、通信設配布個所に設置し、来所に繋がるきつようにした。

【効果】はじめてカードで新規利用に来た人3組と成果は少なかった。しかし、友人の紹介でひろばを利用し始めた人が（H29:14%→H30:23%）に増加。このことからツール作成ではなく日々の利用者のニーズ、子どもの過ごしやすい環境等が利用促進につながると考えられる。

新規登録数

（H29 233組 H30 215組）前年度から 4%減

更新組数

（H29 114組 H30 145組）前年度から 27%増

ひろばを知った理由

H29 ①HP22% ②友人の紹介21% ③通信21% ④乳児健診15%

H30 ①友人の紹介23% ②HP21% ③通信15% ④乳児検診12%

◆スタッフの関わり…チーム力を高める。

- ・お互いの業務内容をミーティングで把握、進捗状況を共有しコミュニケーションを心掛けチーム力を高める。

【効果】業務を共有したことで状況に合わせてカバーし合い業務の効率が上がり今まで協議できなかった通信配布個所の見直し等を行う事が出来た。通信配布箇所の増加（H29 40箇所 H30 47箇所）

◆イベント…地域に出にくく孤立育児になりやすい多胎児家庭にツインズデーに来てもらう。

- ・ツインズグループMLを立ち上げ、ひろばのイベントのお知らせなどをし当事者同士が集まれる機会を多く作った。

【効果】MLを通して当事者同士のつながりをより感じられるようになり、ツインズデーの参加率が前年度より3.5倍になった。参加回数が増えたのと同時に普段のひろば利用に繋がった。

・多胎登録組数 H29 4組 H30 10組

・ツインズグループML 登録組数 10組

◆利用者の力…幅広い人材の確保。様々は人との関わりをもてるようにする。

- ・地域の学生にボランティアに長期的にひろばに入ってもらい、利用者やスタッフとの信頼関係を構築した。
- ・ひろばのイベントにおたすけスタッフに入ってもらい、外でのイベントの開催や先輩ママとして会に参加してもらった。

【効果】短期的ではなく長期的にボランティアに入ってくれる学生を増やすために、一人一人のボランティアの目的を把握し達成できるように関わった。また、得意なことを発揮できるようにイベントも担当してもらい役立ち感に繋がった。

ボランティア参加数 H29 18人 H30 26人

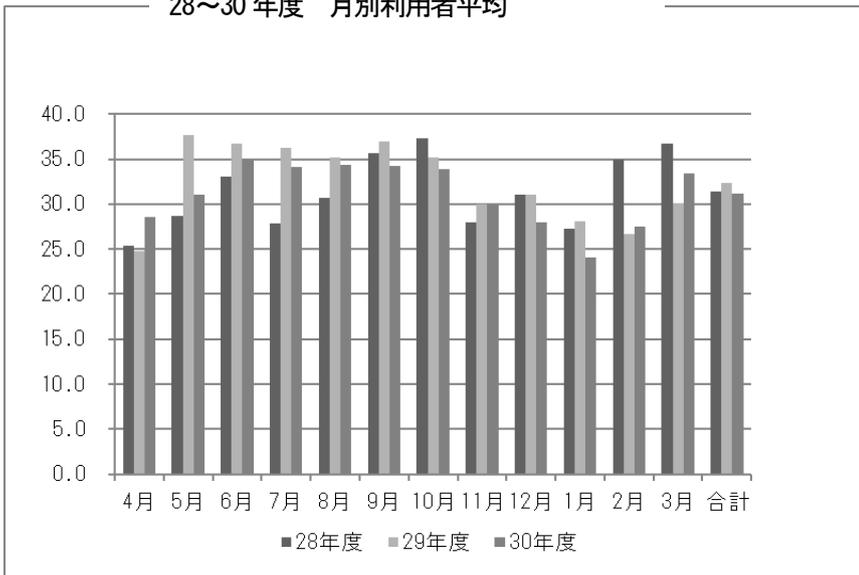
【成果と課題】

多胎児家庭の虐待リスクは単胎家庭に比べ4～5倍高いと言われていることから、地域で多胎児を子育てしている当事者同士で繋がれる機会を多く作れたことから、その後、家庭が抱える不安や悩みを早期に支援することができ、地域の中でも多胎児が利用しやすい拠点であるという認知度は上がった。

しかし、新規登録数などは減少したことから次年度は地域と繋がるツールをSNSなどに変更し、ニーズにあったひろばづくりをしていくことが課題である。

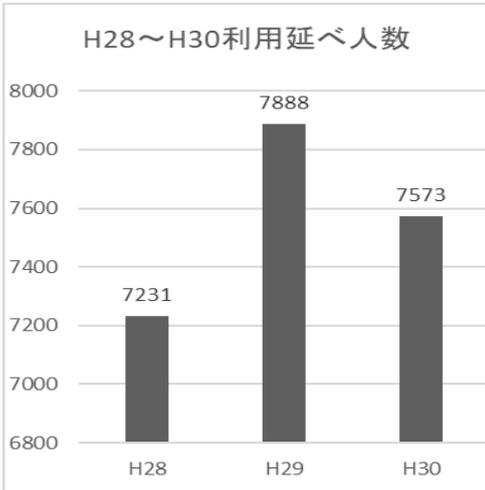
<p>① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会：月1回/12回 ・プレママ&赤ちゃんひろば：月1回/12回 ・ツイズデー：月1回/12回 ・おたすけスタッフ主催のイベント(12回/年) ・年度生まれの会/月2回 ・土曜ひろば 月1回/計12回 ・転勤族の会 年6回 ・地元の会 年6回 ・助産師相談 年3回 <p>ひろば開館中は、親子が孤立しないようにスタッフが十分配慮し、自由に交流ができるようにしている。同じ月齢の子どもを持つ親同士や多胎児の親同士が出会える場を作り、より交流が進むきっかけづくりを行っている。安心して出産、育児ができるようプレママと先輩ママの交流も定期的に開催。</p> <p>休日に開館日を設け、父親も参加しやすいイベントを休日に開催予定。</p>
<p>② 子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<p>ひろば内で相談、またはスタッフと個人で相談ができるように個別の部屋・時間の選択ができるようにしている。</p> <p>スタッフは一緒に子育てを考え、見守る姿勢を前提に、情報提供や必要であれば専門機関を紹介する。プレママ&赤ちゃんひろば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターによる幼稚園・保育所情報会(1回/月程度) <p>【連携機関】こだま学園・保健センター</p>
<p>③ 地域の子育て関連情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばに情報コーナーを設置し、行政からの情報のチラシ、コミュニティセンター等で集めた子育て情報を提供。 ・最新の幼稚園、保育所、遊び場などを分かりやすくファイルに整理。 ・子育てに関する新聞記事や講座などの資料を掲示している。 ・クチコミ掲示板を作り、自由に子育て情報を交換できるように管理。 ・わはは・ひろば専用サイトの運営。その他、本体 NPO で収集した情報を、SNS、情報誌等で提供。 ・最新の情報を収集できるように、ひろばに iPad を設置。 ・利用者からの情報提供を募る。
<p>④ 子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のための救命講習(2回/年)、防災講座(2回/年)、ファミサポ登録会(2回/年)、おもちゃの話(1回/年)、助産師相談(3回/年) ・工作あそび、手あそび、絵本の読み聞かせ(随時)ツイズデーやプレママ&赤ちゃんひろばなど、同じ立場や同年代の人が集まれる機会を設けている。

28～30年度 月別利用者平均

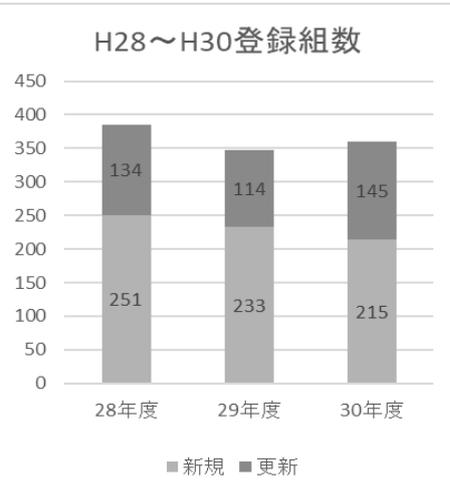


前年度同様、流行性感染症や猛暑の時期は減少傾向にみられたが、転勤時期にイベントを増やしたりしたことで僅かではあるが増加した。

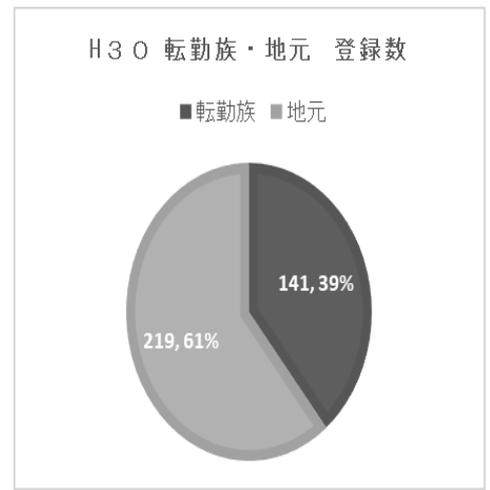
H28～H30利用延べ人数



H28～H30登録組数

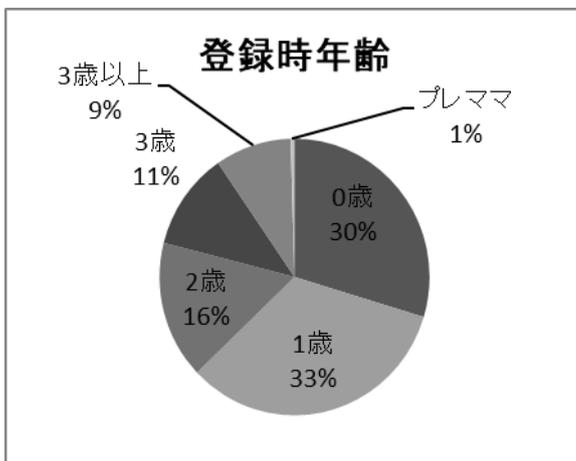


H30 転勤族・地元 登録数



前年度に比べ更新組数が増加した。H29. 30 年度共に地元の利用者が6割を占めていることから、個々の利用年数が伸びていると考えられる。新規組数は減少しているが、全体の登録組数としては前年度に比べると増加している。

登録時年齢



前年度に比べ0～1歳が5%減少し、2歳以上が5%増加している。前年度0～1歳だった子どもたちが継続的に利用していることが考えられる。

子育て支援部（高松子育て支援コーディネーター事業）2018年度 事業報告

年度目標	様々な課題を持つ家庭に寄り添い切れ目ない支援を行う
事業費	¥7,200,000
相談件数	628件（うち継続253件 前年度比 102% 情報提供375件 前年度比 122%）

『取組・効果』

○継続支援ケースについて、1ヶ月に1度支援方法の確認を行った。

【効果】拠点とのミーティングで支援計画を共有し具体的な支援内容を理解することで、役割分担しスタッフ全員が支援を行うことが出来た。

○各関係機関との連携をとり、必要に応じてケース会に参加。

【効果】今年度連携した機関が49ヶ所あり、内18ヶ所が新たに関わった機関。前年比36%増加。すべての機関が前年度と比較すると連携回数も増加している。保健センターから繋がってきたケースが4件あり、前年度は0件と比較すると、顔がつながりコーディネーターの認知も浸透しているためと考えられる。

○妊娠期からの利用者支援・ひろば利用促進

【効果】年4回高松市保健センターで実施のパパママ教室にコーディネーター周知を目的に参加。30年度は利用に繋がらず。

○ひとり親家庭への支援

- ・自分(親)の気持ちを話せる場の提供・リラックスできることを目標に座談会を実施。(1回/月)
- ・メールシステムを開始。拾いにくいひとり親情報を、座談会の日程やその他当事者の会のお知らせ、制度に関するこの情報発信をしている。現在登録者数16名。
- ・必要な情報が得られるよう、法テラスや四国財務局を招いた。
- ・香川ぼしふしの会の代表者が参加することで、経験者の話を聴き気持ちの整理が出来、手続きまでの手順を知ることで複雑な手続きへの不安軽減となった。

【効果】座談会でアンケートを取り、参加者のニーズに沿って座談会を組み立てるなどした結果、気持ちが楽になったという回答が多く、満足度は100%であった。座談会参加者は、延べ39名。内訳[初めて/27名・1~2回/7名・3回以上/5名]3割はリピーターと、目標であったリラックスした場になっていると考えられる。

○父親支援

- ・パパだけ座談会を坂出利用者支援と合同で開催。普段育児の悩みを話す機会が少ない父親のための座談会を開催。
- 【効果】参加者からは、夫が育児に積極的に関わるようになったなどの反応があった。

○地域共生社会の実現に向けて

- ・まるごと福祉定例会に月1回参加。

【効果】子ども子育て家庭・高齢者・障がい者・生活困窮者を包括的に支援する体制を構築するため“まるごと福祉相談員”と連携して支援を行った。今まで連携が無かった、高齢者施設のケアマネージャーと連携することもあり、ネットワークが広がった。

○多胎育児支援

- ・多胎育児支援ツール作成委員会に参加。DVD作成に協力。妊娠中から多胎児の子育てについてDVDを使ってイメージが出来るよう、内容について意見交換を行った。

『全体的成果』

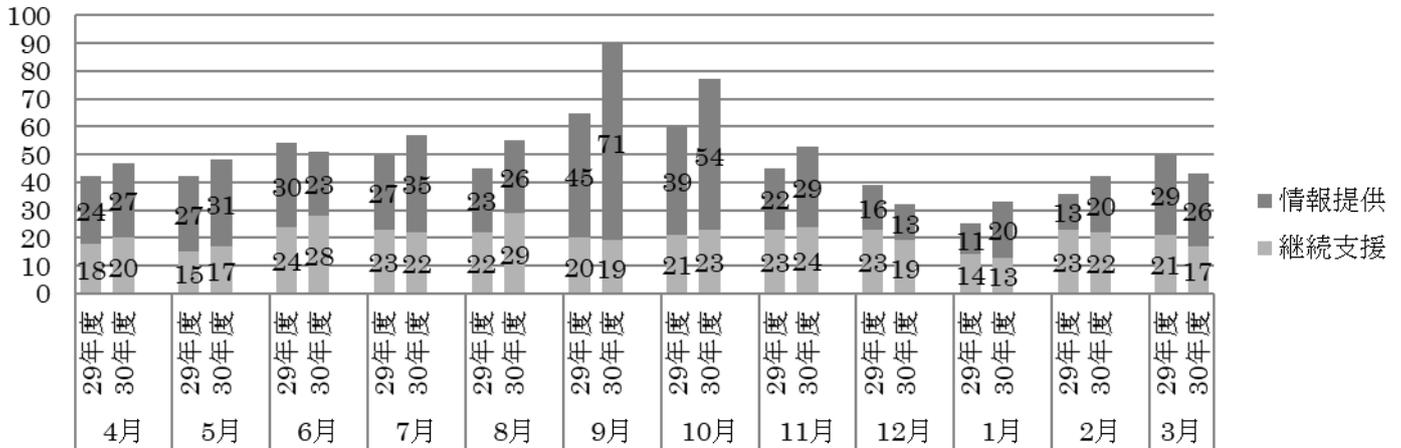
- ・課題に特化した座談会やイベント、情報提供を行うことで支援対象が明確になり具体的支援に繋がった。連携先の増加や、多職種との連携から複雑化した課題への専門的支援の実施となった。

『課題』

- ・パパママ教室参加や産婦人科への通信配布を通して、妊娠期からの拠点利用や利用者支援の利用促進に努めたが、成果がなかった。連携した関係機関が増加していることから、コーディネーターを多分野から周知してもらえるよう、次年度も色々な機関とつながっていきたい。
- ・高松方地域共生社会構築事業関係機関実務担当者会(まるごと福祉)で構築されているネットワークも、こちらから出向くことも検討しつつ、関係を深めていくことを目指す。

《資料①》

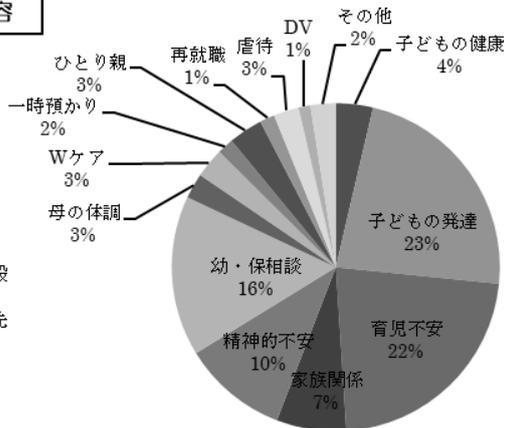
相談総合件数



相談総合件数	継続支援		情報提供	
	29年度	30年度	29年度	30年度
4月	18	20	24	27
5月	15	17	27	31
6月	24	28	30	23
7月	23	22	27	35
8月	22	29	23	26
9月	20	19	45	71
10月	21	23	39	54
11月	23	24	22	29
12月	23	19	16	13
1月	14	13	11	20
2月	23	22	13	20
3月	21	17	29	26
合計	247	253	306	375

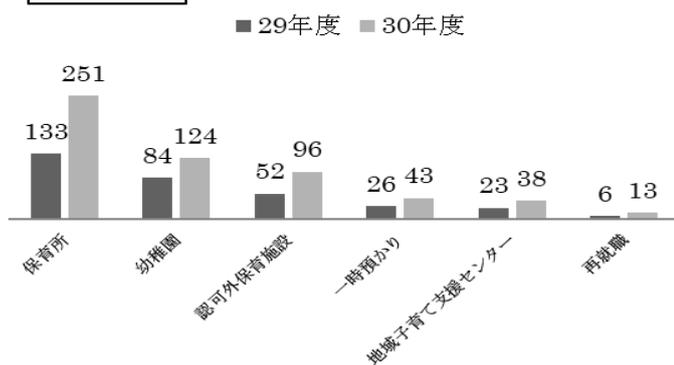
継続支援・情報提供ともに前年度に比べると増加。情報提供の件数の増加は、昨年度コーディネーターを2人態勢にし、拠点にコーディネーターが常駐していることで、気軽に相談できる環境があったことが大きいと考えられる。相談総世帯数は254件。内、57件は継続支援世帯であった。

継続支援内容



継続ケースが前年度と比べると、ひとり親に付随している相談内容が多い。ひとり親の抱える課題が多重であることがわかる。シングル・離婚を考えている方のための座談会を定期的に行うことによって、相談場所としての認知が広がったためと考えられる。不登校の相談先の問い合わせや発達の気になる小学生の子を育てる母の相談もあり、支援対象外年齢ではあるが、就学後の相談機関の情報提供を実施。事業の実施年数が経過したことにより、就学しても身近な相談場所であると認識されているためと考えられる。

情報提供内容



認可外保育施設の件数は、29年度から徐々に増えている企業主導型保育施設の情報提供がほとんどの割合を占めている。高額な保育料・園庭がないなどの理由から、認可外保育施設を避けていた保護者が、認可の保育施設とほぼ同基準で設置されている、安価な企業主導型保育施設の情報希望される方も多くなった。

<p>① 利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて情報の集約・提供、相談、利用支援等を行うことにより、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるような実施すること</p>
<p>○電話相談、予約による来所相談を受け付ける。</p> <p>○担当エリアの地域子育て支援拠点に出向き、利用者からの相談を受け付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わはは・ひろば高松（月1回） ・わはは・ひろば香西（月1回） ・もこもこ（月1回） ・支援センター はなのみや（年6回） ・おひさまひろば（月1回） ・めだかのがっこう（年1回） <p>○担当エリアのコミュニティセンターに出向き利用者からの相談を受け付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗林コミュニティセンター ほのぼのひろば（年6回）、プレママひろば（年6回） ・二番丁コミュニティセンター すこやか教室（年1回） <p>○担当エリアの小児科や遊び場に出向き、コーディネーターの周知活動と利用者からの相談を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へいわこどもクリニック 赤ちゃんカフェ（年8回） ・たかまつミライエ（年3回） <p>○相談内容からの連携・情報収集</p> <p>香川県 子育て支援課・香川県子ども女性相談センター・香川県児童相談所・香川県教育センター・財務省 四国財務局・高松市 保健師・母子保健コーディネーター・高松市 地域包括支援センター・子育て支援課・子ども女性相談課・こども家庭課・こども園運営課・こども園総務課・障がい福祉課・市民課・他拠点コーディネーター・法テラス香川・男女共同参画センター・こだま学園・ファミリーサポートセンター・ほっと助産室・香川県社会福祉協議会・高松市社会福祉協議会・おてらおやつクラブ・hito.toco・香川ぼしふしの会・グリーンワーク・プレスタ香川・親子クラブわくわく・障害者生活支援センターたかまつ・NPO 法人ペアレントメンターかがわ・臨床発達心理士・二番丁コミュニティセンター・栗林コミュニティセンター・シオンの丘デイサービス・ヨハネの里・保育所・幼稚園・こども園・企業主導型保育施設・認可外保育施設・へいわこどもクリニック・坂出市利用者支援・坂出市地域包括支援センター・坂出市こども課・他県地域子育て支援拠点・他県利用者支援</p> <p>○当法人へのメールでの情報提供。</p> <p>○ケース内容に応じて訪問相談を実施。</p> <p>○高松市社会福祉協議会と連携し同行訪問にて相談支援を実施。</p> <p>○ケース内容に応じて関係機関とのケース会を実施。</p>
<p>② 教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連絡・調整、連携、協働の体制づくりを行うとともに、地域の子育て資源の育成、地域課題の発見・共有、地域で必要な社会資源の開発等に努めること</p>
<p>○シングル・離婚を考えている方のための座談会を開催。法テラス香川・四国財務局を講師に招き、ひとり親家庭への支援を行う。</p> <p>○ハローワーク・マザーズコーナーへの認可外施設の情報提供</p> <p>○高松市保健師の拠点事業視察対応。拠点・コーディネーター事業の現状説明。</p> <p>○コモンセンスペアレンティング実施（9/11・9/21・9/28）</p> <p>○坂出市利用者支援と協働で「父親向け座談会」を開催。</p>
<p>③ 本事業の実施に当たり、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等に関する情報について、リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広くサービス対象者に周知を図ること</p>
<p>○4 拠点合同のリーフレットを作成、市内で配布。</p> <p>○香川県内に無料配布されている子育て情報誌「おやこ DE わはは」、わははメール、わはは・ひろば高松通信にて子育て支援コーディネーターについて掲載。</p> <p>○わはは・ひろば高松（月1回）、わはは・ひろば香西（月1回）にて「コーディネーターの日」を開催し、コーディネーター事業や新制度について利用者へ情報提供を行う。</p> <p>○わははネットHPにてコーディネーター事業の周知を行う。</p>

- コミュニティセンターや桜町・勝賀の保健センターへ毎月出向き、コーディネーター事業についての説明を行う。
- さくらんぼ教室にてコーディネーター事業の周知を行う。(6/14・10/11・2/7)
- パピママ教室にてコーディネーター事業の周知を行う。(7/18・11/28・3/20)
- 「シングル・離婚を考えている方のための座談会」のパンフレットを作成。

④ その他事業を円滑にするための必要な諸業務に関すること。

- 月1回、4拠点が主催の、連絡会を開催。
- 4拠点合同で研修会を行う。研修会の講師に地域の関係機関の実務者を迎え、顔の見える関係を構築する。
- スーパーバイザーを迎え、事例検討会、拠点でのスーパーバイズを行う。
- 関係機関合同でのケース会議出席(子ども女性相談課・保健師)

【研修】

- ・香川県 子育て支援員研修(利用者支援事業 基本型)
- ・発達障がい児・者サポーター養成講座
- ・ひろば全協 子育て支援コーディネータースキルアップ研修
- ・ひろば全協 全国子育てひろば実践交流セミナー in 岐阜
- ・CAP研修(「イクケン香川」子育てカレッジ)
- ・発達・発育に悩む保護者の勉強会(親子クラブわくわく)
- ・両親の離婚・別居を経験したこどもの支援(面会交流支援センター香川)
- ・「メンタルヘルスケアが必要な妊産婦の精神状態について」(香川大学医学部)
- ・小学校就学を見据えてのサポートについて(講師：山本木ノ実先生)
- ・児童虐待対応における法律と子どもの権利(講師：弁護士 工藤ゆかり)
- ・多様な家族のあり方とそのサポート(面会交流支援センター香川)
- ・特別養子縁組制度に関する研修会 in 香川(特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会)
- ・坂出市ボランティア講習会
- ・アクティビティインストラクター資格認定セミナー
- ・広がれ、こども食堂の輪!全国ツアーinかがわ
- ・こども食堂を考える～交流と発見の場～(地区社会福祉協議会)
- ・子どもの貧困対策コーディネート講演会
- ・子どもがより良く育つために家庭ができる子育ての方法(ADDS 地域研修会)
- ・香川県児童虐待防止医療連携強化事業 平成30年度 第1回研修
- ・仕事と育児・介護の両立
- ・ヒトトコ特別セミナー/LITALICO
- ・ひろばミーティング(週1回 スタッフ対象)
- ・スタッフ研修 月1回

【視察】

- ・関西学院大学さぼさぼ
- ・LITALICO

子育て支援部（わはは・ひろば香西）2018年度 事業報告

年度目標	ひろばが「私の居場所」となる ～利用者が主役になるひろばづくり～
事業費	¥7,951,000
利用者数	延べ人数6,766人（前年度合計6,317人 前年対比 107%）

◆情報提供…利用者のニーズに合わせた地域情報の収集、様々な方法で情報提供をしていく。

- ・iPadの配置場所を変更。iPad内の情報を整理し、利用者が使いやすいように検索例をつけた。

【効果】iPadの設置を利用した26%→15%（H30前期→後期）

利用したことがないが知っている42%→67% 知らない32%→18%

iPadの認知が68%→82%に増加した。一方で利用した方の減少が見られたが、その理由としては、「子どもが触りたがるから」「自分のスマホを使うから」という意見も聞かれた。

◆スタッフのかかわり…スタッフのチームワークづくりを進め、利用者間の交流につなげる。

- ・ひろばの業務をスタッフで分担、それぞれが責任を持って進めながら進捗状況を報告した。
- ・日々の振り返りを丁寧に行い、利用者の状況を共有していった。

【効果】業務の担当を決めることで、スタッフがより積極的に動くことができ、それぞれの業務の見直しや効率化を図ることができた。また、利用者の様子を共有することで、利用者の声をイベント企画につなげたり、利用者の交流に活かすことができた。

◆イベント…利用者が主体的に楽しみながら交流できるイベントづくりをする。

- ・「ママのわくわく企画」（5～3月）毎月実施。利用者の興味や得意なことを企画につなげた。
- ・利用者が主となりフリマを開催した。収益でひろばのおもちゃを購入した。

【効果】対象を母親に絞ったイベント作りをすることで、母親自身が楽しみ母同士のつながりがひろがったり、ともに達成感を感じたりする様子が見られた。

利用目的③自分の知り合い友だちの輪が広がる④自分自身が楽しめる⑤自分の息抜きができる

③④⑤合計 H29 27.5%→ H30 26%

目標の50%には届かなかったが、イベント参加者へのアンケート（H30後期）では

「楽しめた」100%「交流できた」94%、「来館が増えた」67%の回答が得られ、一定の効果が得られたと感じる。（イベント開催日の利用人数33.5人（通常イベント33.4人））

◆地域とのつながり…地域と継続的に交流し、親子と地域がつながるきっかけとなるようにする。地域にひろばの認知を広げる。

- ・通信をカラー版にし、配布場所も6か所増やして地域への周知に努めた。
- ・地域の乳幼児の利用促進を目的に4か月児相談時に通信臨時版を手渡し利用を呼び掛けた。
- ・地域の保健センターへプレママ向け通信を預け、母子手帳発行時に配布を依頼。
- ・ひろば紹介セットを作り、利用者が友達にひろばを紹介する時に利用してもらった。
- ・シオンの丘デイサービスセンターとの交流回数を増やした。

【効果】今年度登録組数246組（H29 236組）近年減少が続いていたが、微増につながった。

4か月児相談（H29 15組→H30 21組） 通信（H29 13組→H30 22組）

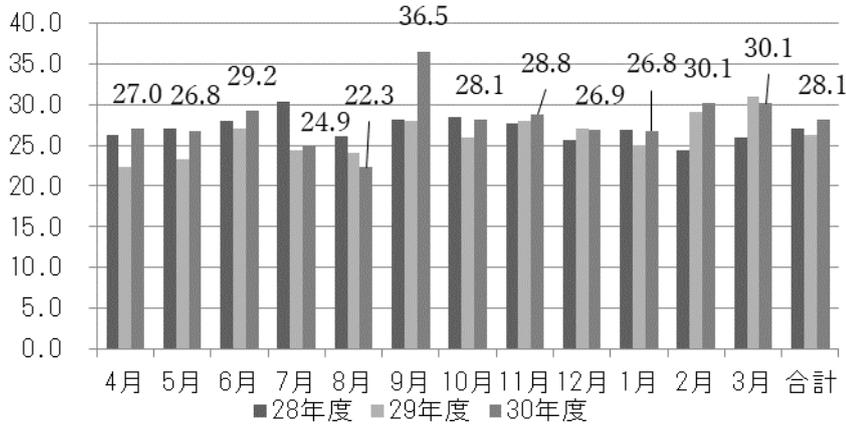
高齢者との交流会は、継続した参加が多く参加組数も増加したH29 5.3組→H30 62組

【成果と課題】

- ・子どもだけでなく母親の楽しみを重視したイベントを多く企画することで、楽しみができ生活を前向きに取られ、ひろば利用に繋がり生活リズムも整い子どもの発達、母自身の子育ての負担感の軽減となった。高齢者との交流も子どもへの体験意識の向上、地域への社会貢献への意識などになり地域に根付いた支援に繋がった。情報提供がニーズに応じた内容、ツールを再考する必要がある。

<p>①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 月1回/12回 ・プレママ&赤ちゃんひろば 月2回(午前・午後)/24回 ・わんぱくあそび 月1回/12回 ・ツインズデー月1回/12回 ・土曜ひろば月1回/12回 ・お茶会 年2回 ・わらべうたあそび 月2回 ・シオンの丘デイサービス訪問 年6回 <p>ひろばにきた親子が孤立せず心地よく過ごせるようにスタッフが配慮し、他の親子と十分交流できるようにする。同じ月齢の子どもをもつ親同士や多胎児の親同士が集まるイベントを企画し、ひろばを通して出会い、交流が深まるきっかけとなるようにする。休日に開館日を設け、父親が参加しやすい環境を作る。近隣の高齢者施設との交流・地域の方を招いてのイベントなどを通して、利用親子が地域を身近に感じながら温かい交流ができる機会を作る。</p>
<p>②子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<p>ひろば内での相談、必要に応じて個別相談ができるように配慮する。 スタッフは、当事者の目線で一緒に子育てを考え、寄り添う姿勢を大切にしながら、必要な情報を提供し、状況に応じて地域子育て支援コーディネーターと連携をとり専門機関を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレママ&赤ちゃんひろば ・ツインズデー ・保健師さんと座談会 年1回 ・子どもの育ち座談会(香川こだま学園)年1回 <p>【連携機関】香川こだま学園、勝賀保健ステーション、地域子育て支援コーディネーター</p>
<p>③地域の子育て関連情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばに情報コーナーを設置し、市役所、コミュニティーセンターなどから得た子育て情報をいつでも見られるように掲示板・ファイル・iPadに整理・配置しておく。 ・最新の幼稚園・保育所・子ども園・あそび場、サークル、子育て支援拠点の情報をわかりやすく整理する。 ・子育てに関する新聞記事、イベント・講座などの情報を掲示する。 ・クチコミ情報掲示板や地域情報マップで自由に情報交換ができるようにする。 ・わはは・ひろば専用サイトの運営。その他、本体NPOで収集した情報を携帯メール、インターネット、情報誌等で提供する。
<p>④子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 年6回 ・乳幼児のための救急救命講習 年2回 ・子どもの育ち座談会 年1回 ・おもちゃのお話 年1回 ・保健師さんと座談会 年1回 ・わらべうたあそび 月2回 ・幼稚園選び座談会 年1回 ・新生活座談会 年1回 ・ファミサポ登録会 年2回 ・絵本の読み聞かせ・ふれあい遊び(毎日) <p>親子または保護者が様々な講習や座談会に参加できる機会を設け、子育ての悩みの軽減につなげたり、同じ立場や同年代の子どもをもつ人と交流をしたりできるようにした。</p>

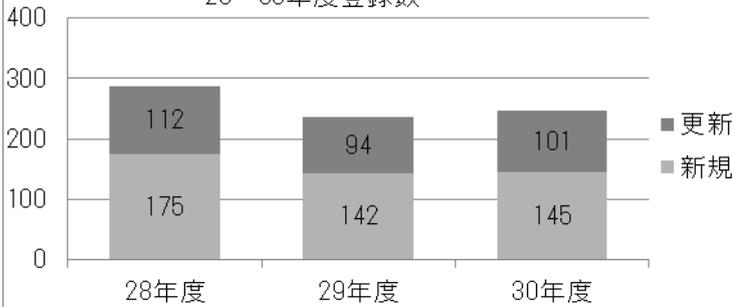
28～30年度 月別利用者数平均/日



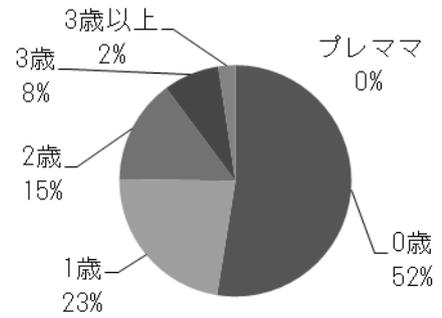
延べ利用者人数

	H28	H29	H30
人数	6522人	6317人	6766人

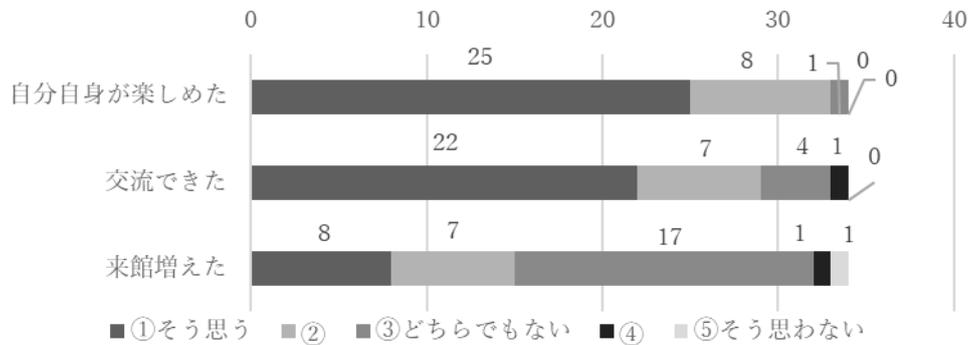
28～30年度登録数



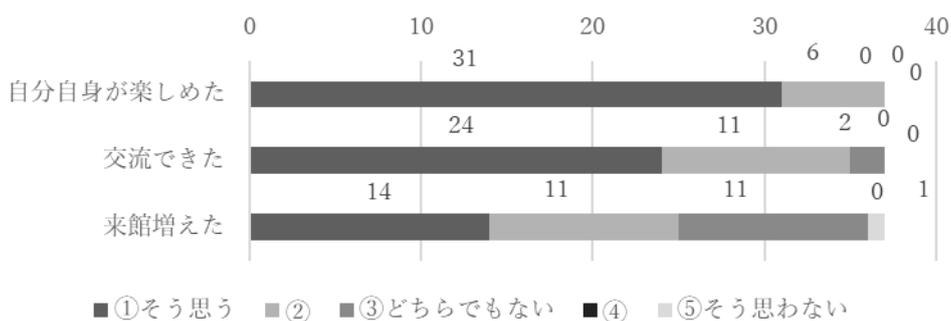
30年度登録時の子どもの年齢



ママ企画アンケートH30 前期



ママ企画アンケートH30 後期



子育て支援部（さかいで子育て支援センター「まるっ子ひろば」）2018年度 事業報告

目標	①安心・安全の確保（安心して生み育て、健やかに守られて育つ環境） ②利用者の視点（子ども・保護者・地域）にたった運営 ③連携機能の強化（妊娠期から切れ目ない支援実施のため各所と連携） ④民間ならではの柔軟で機動性のある運営
事業費	事務所機能 ￥5,742,000 フェスティバル ￥200,000
利用者数	延べ利用者数 13,921人/達成目標12,000人（前年度より909人増加 前年対比107%） フェスティバル参加者 274人（前年度より32人増加 前年対比112%）

1. 自主事業

【成果】

①安心・安全の確保

- ・毎月2回の定期安全点検に加え、坂出市消防署にご協力頂き火災・地震を想定した避難訓練や救急救命講座を実施することで、不測の事態に備えた体制づくりを行い安全な環境づくりに努めた。
- ・不審者侵入予防のために、玄関に人の出入りを感知して鳴るセンサーを設置した。

②利用者の視点にたった運営

- ・坂出市社会福祉協議会から幼児向けのおもちゃを借りて夏休み幼稚園児開放デーを設け、室内でも楽しめるように環境設定を行い暑い日でも幼稚園児の利用に繋がった。
- ・リサイクルデー期間中に産直販売を開催したり、地域の自治会が利用したり、1階地域交流スペースを有効に活用できた。
- ・地域の方やJAと協力して年間通して野菜を栽培した。草抜きや水やりなどは利用者と一緒にいき、収穫した野菜も地域の方と一緒に料理講座を催してみんなで調理して美味しくいただくという体験ができた。
- ・夏には、地元の高齢者施設の夏まつりに出店して工作講座を行い、地域の方への認知と地域の団体との意識付けになった。

③連携機能の強化

- ・さかいで子育てフェスティバルの開催を通じて、市内の子育て支援に関わる団体、及び行政との顔の見える関係づくりができ、連携強化となった。

- ④さかいで子育てフェスティバルの開催を通じて、他業種と協力して交流が得られた。土日も館内を利用したいというアンケート内容から、3月から開館日は常時地域交流スペースを開放した。

【30年度の目標に対する成果と課題】

地域スペースの活用や他団体と連携し様々なイベント参加やイベント実施につながり、少しずつ地域子育て家庭以外の人への認知が広がってきたが、普段の利用にはつながっていないのが課題である。

<p>① センターの管理業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の確保及び不測の事態に備えた体制づくり、内部連絡システムの徹底：地震を想定した避難訓練を5月8日に実施した。坂出市消防本部消防署消防士を招き、ひろば利用親子も参加しての防災訓練を6月28日に行った。 ・利用規約の徹底：どの利用者も気持ちよくセンターを利用できるように、新規及び更新登録時に利用規約を読み上げ、利用者とともに確認した。 ・掃除・整理・整頓の徹底：各担当箇所を決め毎朝の清掃や環境整備を丁寧に行った。 ・利用者の声が聞ける対策：年2回の利用者アンケートの実施（実施期間：平成30年7月、平成31年3月）。 ・利用者の登録・管理：受付システム「こころひろまるくん」による利用者情報の管理に加え、緊急時の持ち出し用として手書きの利用者名簿を作成・管理した。
<p>② さかいで子育てフェスティバル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月21日実施。市内外の子育て支援関係団体10団体にブース出展してもらい、子育て支援活動PRや親子遊びを提供してもらった。 ・まるっこひろば全館を活用して親子とも遊びに来て楽しめるイベントを実施できた。 ・実行委員会形式でイベント内容を考え、地域の団体との交流を深めることができた。
<p>③ ネットワーク・研修等事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さかいで子育てネットワーク会議（さかいで子育てフェスティバル実行委員会）（5/29、7/18、9/26開催） ・まるっこリサイクルデー（6/11～24日、11/1～11/8）実施。内4日は産直販売を同時開催。 ・まるっこひろばHP、Facebook等で、毎日活動の紹介をした。
<p>④ まるっこ菜園の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方やJAと協力して季節の野菜を栽培・収穫できた。 ・収穫した野菜は地域の方の協力で、利用者と一緒にクッキング講座を開催して食した。

2. 「まるっ子ひろば」子育てひろば

年度目標	赤ちゃんから利用しやすいひろばづくり
事業費	¥7,453,000
利用者数	年間利用者数 4,150 組 9,646 人/達成目標 6,000 人 (5409 人・大人 4237 人) 前年対比 99.8%

◆情報提供…利用者と共に情報収集を行う。

- ・ 掲示板、情報コーナーをテーマ別にし、利用者の口コミ情報をファイリングすることで、欲しい情報を手に取りやすいようにした。
- ・ 赤ちゃんひろばでは利用者を小グループに分けるなどし、利用者同士の子育て情報交換を促した。

【効果】利用者同士の情報交換が盛んになり、アンケートでの赤ちゃんひろば利用理由は、【子育てに関する知識が身につく】が前期 4%→後期 11%へ倍増。

◆イベント…赤ちゃんひろばの回数・内容を拡充。

- ・ 赤ちゃんひろばを 7 月以降月 2 回から月 3 回に回数を増やし、離乳食などの講座や寝相アート、手形足形工作など交流以外のイベントも導入。併せて、イベント計画準備には利用者も加わってもらい、一緒に進めることで利用者主導のイベントも増加した。
- ・ 赤ちゃんひろばアンケートを実施し、利用者の思いに沿ったイベント作りを行った。
- ・ 1 階地域交流スペースを活用し住み分けを行うことで、安全に過ごせるようにした。
- ・ 市広報へ赤ちゃんひろば PR を掲載、赤ちゃん通信を作成し 3~4 か月健診にて配布。広く市内の親子に向けて広報を行った。

【効果】赤ちゃんひろば平均利用組数：2 回実施時 6 組→3 回実施 12 組へ増加するとともに、赤ちゃんひろばから普段のひろばへ利用が広がっていった。(赤ちゃんひろばアンケート：【赤ちゃんひろば以外の利用頻度】週 2 回以上利用が前期 13%→後期 32%へ。)

◆スタッフのかかわり…親子が安心してひろばを利用しながら周囲と交流できるようにする。

- ・ 信頼関係構築のため一人一人の利用者と向き合い、じっくり話に耳を傾けた。
- ・ スタッフが輪に入り他の利用者が話に入りやすいよう一緒に話をしたり、子どもたちのかかわりあいをつくることで利用者をつなぎ、利用者同士の交流を促す。また、イベントを通して子どもを見合うなど交流を促進した。

【効果】アンケート結果では【自分の知り合い・友達の輪が広がる】が 29 年度後期 3%→30 年度後期 5%へ増加した。

◆地域とのつながり…祖父母、地域の方との交流を継続しながら、利用者地域をつないでいく。

- ・ ご近所さんと交流会や、松寿荘との交流を継続。
- ・ 菜園の野菜や果物の栽培や収穫を通して、地域の方々と関わる機会を増やしていった。

【成果】

目標：市内 0 歳登録者数、リピーター率 20%増を目指す。

(29 年度市内 0 歳登録者数 40%/出生数、リピーター率 60% ※年 3 回以上の利用をリピーターとし算出。)

⇒ 30 年度市内 0 歳登録者数 58%/出生数、リピーター率は 65%だった。

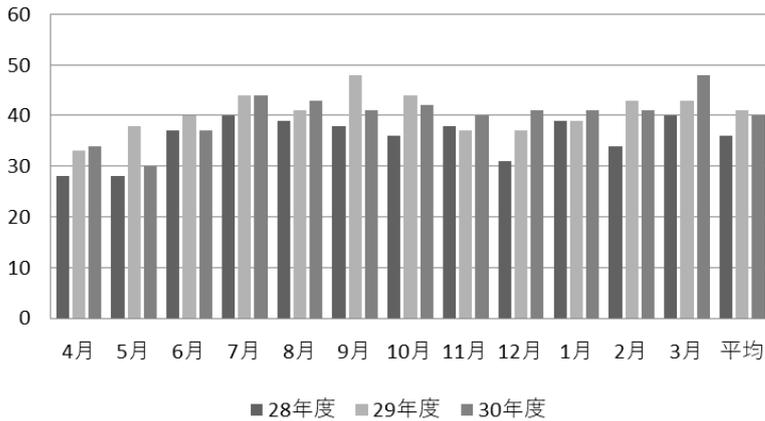
広報誌掲載や 3~4 か月児健診でのチラシの配布など、市内の親子に向けた広報を強化したことで市内 0 歳登録者数 18%増となったと推測される。5%ではあるがリピーター率も増加し、継続的にひろば利用する 0 歳親子が増えた。

【課題】年間利用者数は 9646 人と昨年度より約 200 人、2%減となった。

親子だけでなく、地域や多世代に向けてもひろばを知ってもらい、広く交流につなげていくことが課題と考える。

<p>① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要綱以上の職員配置をし、いつ来ても馴染みの職員に見守られる安心感を提供できるよう心がけた。 ・昼食時間を設け、食事を共にすることで交流を促進した。 ・ひとり親*多胎児*妊婦*父親*祖父母等様々な利用者を温かく迎え入れ、利用を促進するよう工夫した。 ・はじめての人も来やすい（来館動機づけ）プログラム～様々なニーズに対応したプログラムを実施した。 <p>【提供プログラム】誕生会・赤ちゃんひろば・ツインズデー・防災デー・ランチデビューデー・音楽ひろば・大型絵本の日・季節遊び・工作・水遊び・美術ワークショップ・遊びワークショップ・屋外ひろばであそぼう・屋外ひろばでピクニック、ハンドメイドクラブ、年度の会など</p>
<p>② 子育て等に関する相談・援助の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば内での相談、また必要に応じて個別相談ができるように配慮していった。 ・スタッフが、当事者目線で一緒に子育てを考え、寄り添う姿勢を大切にしながら、必要な情報を提供し、状況に応じて専門機関とつながれるようコーディネーターと連携していった。
<p>③ 地域の子育て関連情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報コーナーを設置し、公的情報のみならずインフォーマルな子育て情報も提供した。また子育てに限らず生活情報として必要な情報を提供するよう心がけた。 ・最新の幼稚園、保育所、遊び場などを分かりやすくファイルに整理し、見やすく提供した。 ・子育てに関する新聞記事や講座などの資料を掲示した。 ・わははひろば専用サイトの運営。その他、本体 NPO で収集した情報を携帯メール、インターネット、情報誌「おやこ DE わはは」、Facebook 等で提供した。 ・口コミ情報ファイルを作成、利用者から地域情報を発信できる場を設けた。
<p>④ 子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズを把握し希望の多い講習やプログラムを実施（美術ワークショップ、遊びのワークショップ、音楽ひろばなど）。 ・専門家（発達・医療・防災・子どもの遊び等）を招いて日常では聞けない講座等を開催した（栄養士による食育講座、保健師による育児講座、地域子育て支援コーディネーターによる育児講座、救急救命講座など）。 <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学校の実習を受け入れ。 ・地域の方々協力のもと野菜栽培、収穫体験や地域の方を招いてのクッキング。

28・29・30年度 月別利用者数

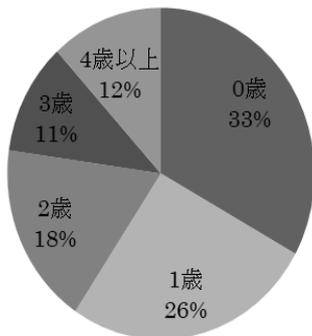


年度初めはひろば利用者が入園等で入れ替わるため、利用が少なかったと推測できる。

7月以降は時候に関係なく、利用者数は40人を超えており、平均利用者数は昨年度とほぼ変わらない。駐車場もあり、天候に関係なく利用できることが要因と考えられる。

また、3月は子どもが楽しめるイベントを増やしたことで、利用者数が伸びたと思われる。

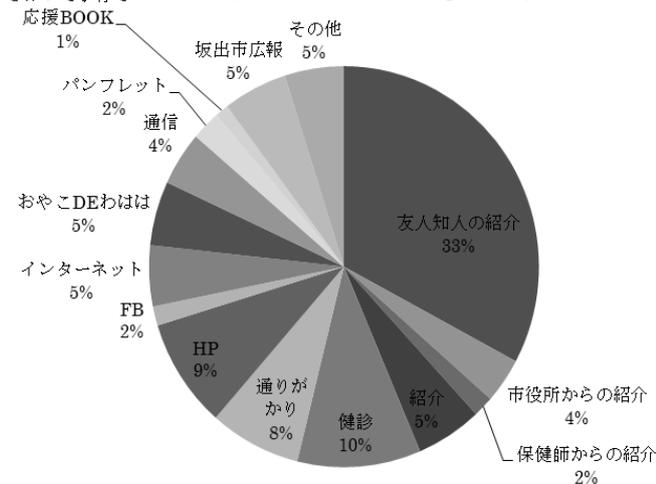
30年度登録時の子どもの年齢(館全体)



0~1歳が59%となり、昨年度から2%増加したが、年齢の割合は昨年度とほぼ変わっていない。

館全体で見ると、昨年度同様屋外や広いひろばで思い切り遊ぶことができるひろばの特徴が表れていると考えられる。

まろっ子ひろばを知ったきっかけ



まろっ子ひろばを知ったきっかけは、紹介が44%を占め、昨年度38%から6%増となった。

また、健診が昨年度7%から3%増となり、赤ちゃん時期からの利用につながったと考えられる。

3. 「まるっ子ひろば」子育て相談

年度目標	①事業の認知を広める ②地域に出向き相談を受ける
事業費	¥6,732,000
相談件数	488件(うち継続282件、情報提供206件)/達成目標100件(前年度比51件増 117%)

<成果>

- ・前年度に比べコーディネーター相談での来所が増加。
相談件数は坂出市数目標数位100件/年を上488件/年。前年度を51件上回った。
- ・定期訪問先に子育てサークルが加わり、コーディネーター相談の間口が広がった。また様々な訪問先や情報提供日に利用者と何度も顔を合わせることで相談しやすい関係づくりにつながった。
- ・わはは・ひろば坂出へ出向いての相談(1回/月)では平均して10件の個人相談を実施。普段通いながっている場所で相談できることが相談件数の多さにも反映されているのが1点と、市内の待機児童増加の不安と私立の幼稚園が認定こども園へ移行したためと考えられる。
- ・ダブルケアカフェの実施は、子育て支援拠点で行うことで子どもを遊ばせながら相談できことから継続した相談があった。地域包括支援センターの同席により専門相談から支援につながった。利用者同士がLINEグループを作成し横の普段の生活にも情報交換や支え合える関係構築となった。
- ・12月よりコーディネーター通信を2月に1回作成。まるっ子ひろば通信と同様に配布、また3-4ヶ月健診でも配布した。より親しみやすく、認知されるよう、通信内にコーディネーターの顔写真を入れ、訪問予定や、季節に応じた話題を盛り込んだミニコラムを作成。
年度内の発行が2回だったため、効果は実感できていないが、コーディネーター通信をみた電話相談が2件あった。
- ・相談内容も複雑化し、多職種と連携し対応している。市内の行政機関との連携も課題はあるものにとれている。

<課題>

コーディネーターのスキルアップ、拠点スタッフとの連携を強化し、継続して支援できる体制を整える。

<全体成果>

年間相談件数は昨年度を51件上回る488件となる。情報提供の内訳としては幼稚園・保育所の相談が6割に上る。入所申込時期にはイベントとして情報提供日の回数を増やしたり、子育て支援拠点に滞在する時間を増やす等の対応をした。しかしながら、申込時期を知らずにいた利用者も多くいたため、今まで以上に積極的な情報提供の必要がある。相談内容が複雑になっているため、今後さらなる連携に努める。
ダブルケアカフェ、シングルのお会も定期開催が相談先として定着してきたこと。支援者にも認知が広がってきている。

① 利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて情報の集約・提供、相談、利用支援等を行うことにより、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう実施に関すること。

- ・電話相談、予約による来所相談を受け付けた。
- ・保健師と同行訪問し、子どもの育ちと相談者のフォローを役割分担し支援を継続して行っている。
- ・保健師・女性相談員・地域包括支援センター・こども課・民生委員とのケース会を持つ等、地域の他機関と連携し相談者の支援を行った。
- ・子育て関係機関（認定こども園・サークル・保健センター等）への訪問挨拶・情報収集をし、訪問シートを作成しより利用者の状況に応じた情報提供ができた。

② 教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連絡・調整、連携、協働の体制づくりを行うとともに、地域の子育て資源の育成、地域課題の発見・共有、地域で必要な社会資源の開発等に関すること。

- ・3.4 ヵ月健診に出向き、保健師と顔の見える関係の構築に努めた。
- ・わはは・ひろば坂出へ出向き情報提供個別相談を月に1回以上実施。相談日に合わせて来所者も多く1日の相談ケースも多い。その後、拠点スタッフと連携し見守り継続支援を行った。
- ・坂出市地域包括支援センターと連携しダブルケアカフェを月1回実施。
- ・ファミリー・サポートセンター等の市内の支援機関と連絡・情報共有を行う。ケースを通し支援内容の共有ができ役割分担が細かく協議することができた。
- ・たかまつ地域子育て支援コーディネーターをはじめ県外の利用者支援への継続支援となるコーディネートを行った。
- ・たかまつ地域子育て支援コーディネーターと共同で「シングル・離婚を考えている方のための座談会」を毎月開催（会場は、高松とまろっ子ひろばで交互開催した）。

③ 本事業の実施に当たり、リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広くサービス利用者に周知に関すること。

- ・コーディネーター通信を2か月に1回発行、3.4 ヵ月健診やまろっ子通信配布箇所にて配布した。
- ・香川県内に無料配布されている子育て情報誌「おやこ DE わはは」、わははメール、まろっ子通信に子育て支援コーディネーターについて掲載した。
- ・3.4 ヵ月健診に出向き事業説明を行った。
- ・HPにて、子育て支援コーディネーター事業や取り組む状況を掲載した。
- ・ダブルケアについての取材・新聞・ラジオなどのメディアでの情報提供・広報活動を行い市内だけでなく県内幅広い広報となった。

④ その他事業を円滑にするための必要な諸業務に関すること。

- ・スタッフ1名が、子育て支援員研修(利用者支援基本型)を受講した。
- ・松寿荘の高齢者とのふれ合い交流を実施。
- ・地域の方、地元JAの協力によりまろっ子菜園をつくり地域交流の場をつくった。また、収穫した野菜を使って、地域の方と一緒に調理実習を行った。

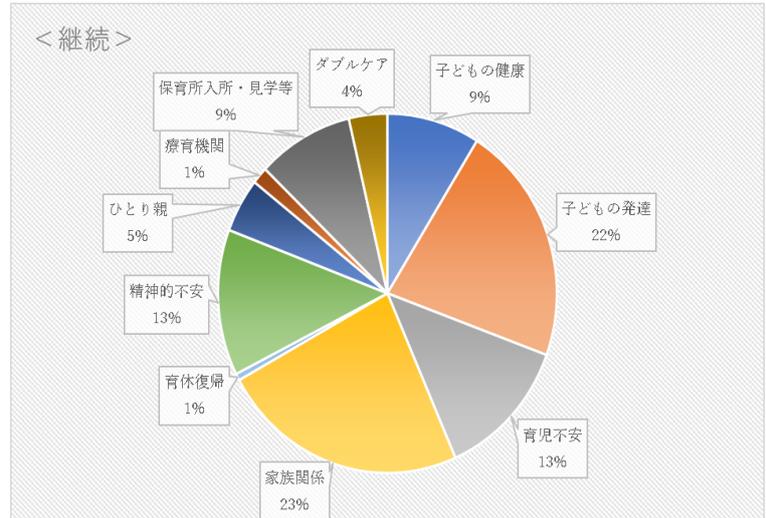
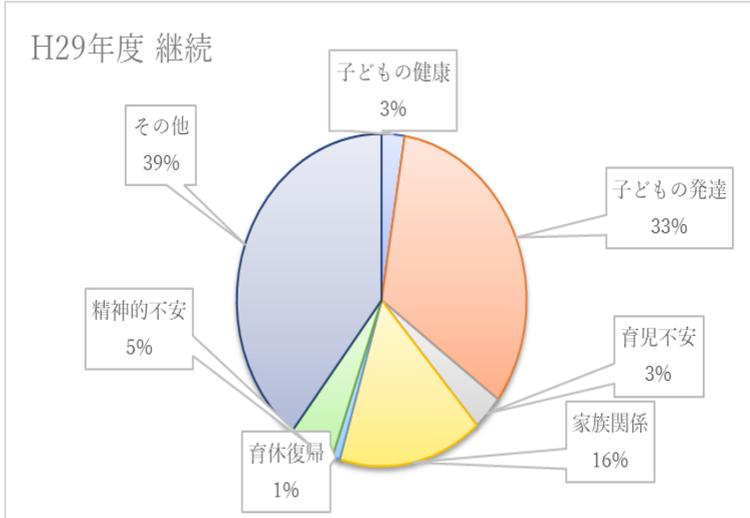
<年間相談件数>

488 件（うち継続 282 件、情報提供 206 件）

※グラフ：右 29 年度、左 30 年度比較

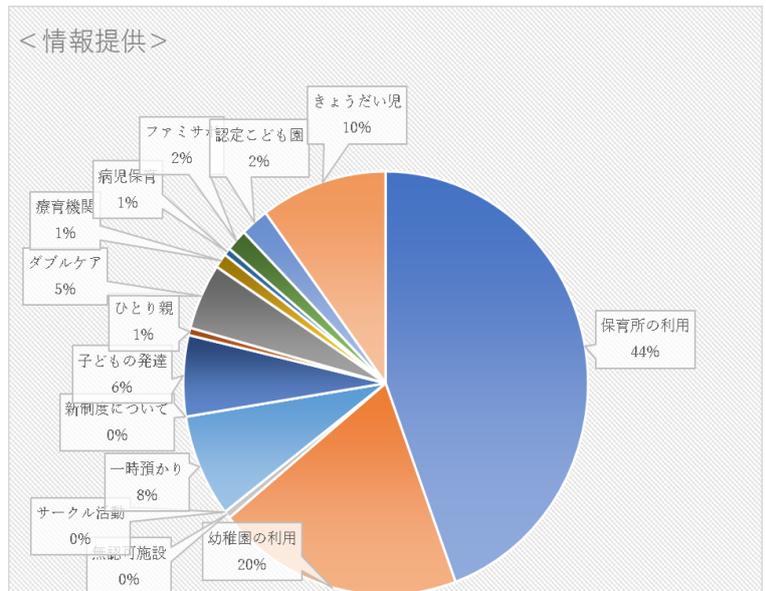
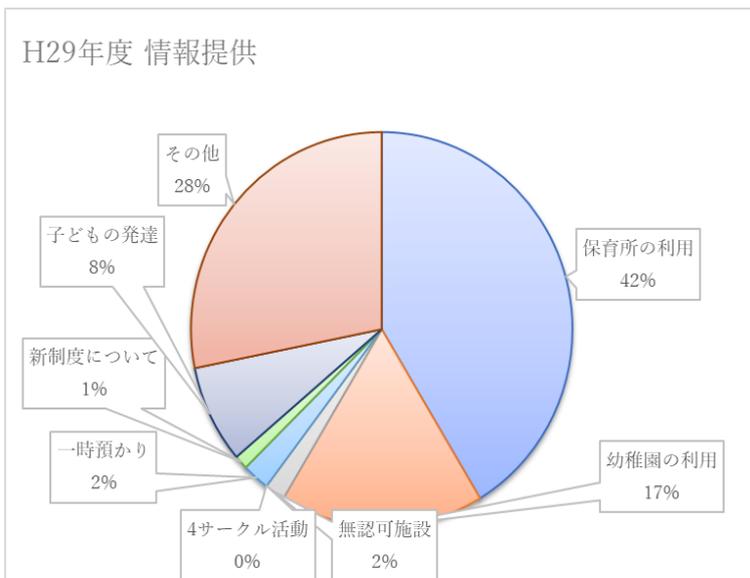
※29 年度の「その他」に入っていた部分を 30 年度では細かく分類している

<継続>



・ダブルケアカフェ、シングル・離婚を考えているの方のための座談会を毎月開催したことで、継続した支援につながった。29 年度に「子どもの発達」に関する項目が 30 年度よりも多かったのはコーディネーターとして臨床発達心理士の常田美穂先生が常駐していたためを思われる。

<情報提供>



・29 年度に引き続いて、保育所・幼稚園の情報提供で全体の 6 割を占める。コーディネーターの子育て情報提供日を設けたことで、相談しやすさにつながった。相談時期としては入所入園申込時期をひかえた 10 月 11 月に集中している。

3. 「まるっ子ひろば」一時預かり

年度目標	信頼し預けられる一時預かりの実施
事業費	¥1,473,000
利用者数	426人/達成目標250人（前年度より176人増 前年対比170%）

- ・スタッフと子どもと保護者の情報を共有する時間をとる。
- ・HPで保育の様子を伝える

◆利用者の個別ニーズを把握し、それに基づいて一時預かりのしおり記載内容及び保育内容を見直す。

- ・アンケートを行い、希望に沿った利用になっているかをみる

【成果】・利用回数は増加の希望が多く、その都度の空き状況にて追加利用を行い状況に応じた保育を行えた。

- ・しおりの内容も状況にて12月に修正

【修正内容】 警報発令時の判断時間7時→8時

◆一時預かり事業の広報を積極的に行う。

- ・HPで保育の様子を伝える

【成果】・重点目標であるHPでの保育の様子をアップできていない。

- ・通信に予約開始や一日の様子を掲載しより利用が身近に感じられように行った。

◆一時預かり担当者とは他スタッフとの連携を進めるために、各事業の状況を積極的に報告し合い、ミーティングを行う。

- ・まるっ子全体MTを職員全員で実施
- ・スタッフ体制も変わったことから今年度から人枠6名から2名に変更し子どもの発達に応じた保育を行う。

【成果】困りごとや改善点などを全員で話をする事で事業に応じた対応へつなげる事ができた。

【事業成果と課題】

利用人数の大幅な増加。リピーターが多く利用してくれると継続利用となっている。アンケート結果からも保育内容には満足しているとの結果である。課題としては新規利用者を増やすために認知度を高める

